

公益財団法人 豊田都市交通研究所 研究成果報告会

2020年度 研究活動概要

研究部長 安藤良輔

2021年7月1日（木）
豊田産業文化センター小ホール

1

目次

- 1 2018年度からの中期ビジョン
- 2 これまでの政策提案実績
- 3 2020年度研究テーマ一覧（配布）
- 4 研究所評価プロセス
- 5 評価結果

2

サステイナブルなモビリティ社会の実現

1.2018年度 からの 中期ビジョン (研究員:10人体制)



3

1.2018年度からの中期ビジョン

研究所の事業

- (1) 調査・研究事業: 政策につながる学術的かつ実践的研究の実施
- (2) 政策提言事業: 研究成果に基づく政策の提言
- (3) 情報発信・交流事業: 国内外への研究成果の発信・先進的知見の収集と発信

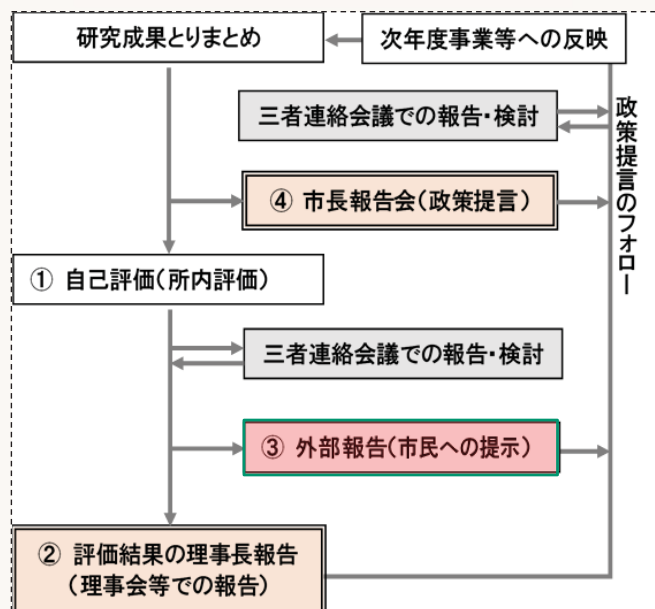
4

2 これまでの政策提案実績

- ① H30:横断歩道での歩行者保護意識向上を目指した取組み提案⇒**止まってくれてありがとう運動**
- ② H30:高齢者の交通安全を念頭に置いたADAS普及促進策⇒**後付け交通安全装置への補助金制度**
- ③ R1:高齢運転者の交通安全対策にかかる提言⇒上記②と下記⑤に集約
- ④ R1:都心駐車場有効活用と来訪促進策の一体的な実施の提案⇒**来訪促進策のさらなる見える化(Wi-Fiパケットセンサー)**
- ⑤ R2:高齢運転者の交通安全対策にかかる提言～信号機のない交差点での出会い頭事故の削減に向けて～⇒**関係者による交通安全対策ワーキンググループ**
- ⑥ R2:リスク評価に基づく効果的な交通死亡事故削減対策の推進に関する提言⇒**ハイリスク箇所の対策実施、継続的にリスクを把握するWebシステムの開発**

5

4. 研究所評価プロセス



7

3. 2020年度研究テーマ一覧(配布)

- ① 研究員：9.6人（2人が年度途中で加入また転出した）
- ② 自主研究12件+受託研究19件
- ③ 「暮らしを支える交通」:自主6+受託5;「都市空間を創出する交通」:自主4+受託4;「交通の安全・安心」:自主2+受託10
- ④ 当面の重点課題である「交通の安全・安心」の受託が10件にもなり、社会的に需要の多い課題であることを裏付けられる。
- ⑤ 本日の報告（各研究グループから1件）
 1. コミュニティ交通（鈴木主任研究員）→**持続可能な公共交通を考える**
 2. 自転車通行空間（三村主幹研究員）→**新しいアプローチを探る**
 3. 交通事故原票データの利活用（楊主任研究員）→**社会動向を踏まえた取り組み**

6

5 評価結果:

- ① 令和2年度では、予定通り実施した市長への政策提言会を受けて、出捐者でもあるトヨタ自動車との協力関係もより一層強化されて、当研究所の当面の重点課題でもある「交通の安全・安心」に関して豊田市・トヨタ自動車と一体的に取り組んでいく体制ができた。
- ② 今にも続いている全世界の課題となった新型コロナウイルスへの対応として、機動的に年度の研究計画を見直して、豊田市はじめ全国を対象とした調査を実施して、各種比較研究を基に、豊田市長および豊田市部長会議へ情報提供ができた。
- ③ コロナ禍の中で、年度当初予算よりも受託研究を順調に請け負うことができ、財政的に研究所の運営を助けたにとどまらず、中期ビジョンに定まっているミッションの達成に繋がった。

8

5 評価結果(続き)

- ④感染症対策として、リモートワーク等へ対応して、20～70%の在宅勤務等の実施を実現して、社会における負荷を減らしたと同時に、受託研究について、遂行への影響を最小限にして、計画通り完成できた。
- ⑤報告会や「まちべん」等外部への情報発信をストップすることがなく、最適な方式を探りながらオンサイトとオンラインとの併用で継続的に実施することができた。公益法人としての事業の透明性を図ることができたと同時に、社会への還元ができたと評価する。
- ⑥最もコロナ禍の影響を受けたのは出張等が伴う各種活動である。その結果、最も低調になったのは国際会議での論文発表および外部での講演活動である。今後、国際ジャーナルへの投稿ヘシフトしたりして、オンラインで参加する国際会議に積極的に参加することとなるが、そのために、より語学力を強化させていく必要がある。

9

総 括

「暮らしを支える交通」と「都市空間を創出する交通」の二つの方向性において、「交通の安全・安心」という当面の重点課題に対応したと評価できる。

昨年度の課題だった情報発信について、ホームページでタイムリーに情報を提供するようにした。また、コロナ禍を受け、オンサイトと併せてオンラインによる情報発信もできて、一定の効果が見えてきたと評価する。

コロナ禍の中、臨機応変に研究計画を見直して、ウィズコロナ・ポストコロナの影響を受けた調査研究ができて、豊田市へ情報提供ができた。

しかし、マネジメントの在り方等において短期的に対策をしてきたものの、これからも先行きが見えない中、ウィズコロナ・ポストコロナを念頭にいた更なる改善が必要である。

ご清聴どうもありがとうございました。

11

5.評価指標を用いた評価結果

役割	評価指標	H28-30 年度 平均	R1 年度	R2 年度
① 広義の都市 交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	17.3	2.3	1.2 ↓
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	20.7	1.9	2.2 ↑
	3) 論文賞等の受賞	0.7	1	3 ↑
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕 競争的研究資金の獲得件数〔その他〕	1.3 3	2 4	4 ↑ 1 ↓
② 交通まちづ くりの推進	5) 市（地域）への政策提案件数	9	1.1	1.4 ↑
	6) 受託研究の受注件数（件）	18	1.9	1.9 ⇒
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	21.7	2.6	2.7 ↑
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕 〔講演〕	39.3 26.7	3.6 3.4	3.6 ⇒ 1.0 ↓
③ 世界への情 報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	14	1.6	4 ↓
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催	0.3	0	0 ⇒
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0.3	1	1 ⇒
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5	5 ⇒
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー 等の開催回数、イベント出展	14	1.6	1.0 ↓
	14) 各種行事記録集の発行：種類	1.7	3	2 ⇔
	15) マスコミの露出度：報道・出演回数	9	5	2 ↓

赤：増大、緑：横ばい、水色：前年比で低下したがH28-30の平均値より増大か横ばい、灰：減少

10